



## とうきょう すくわくプログラム 2025年度活動報告書



### テーマ【花や植物への探究心を深める。】

#### 設定した理由・背景

昨年同テーマで活動を行った際、子どもたちが夢中になっていた事と、活動を継続する事で、さらなる知識や探究心を深める事ができるのではと考えた。

#### 用意した環境設定

- ・季節ごとに、興味を持った植物を保育園へ持ち帰り、保育室内に飾ったり、自然物の色付けや花の染色等の製作活動の中で自由な発想で表現できるようにする。
- ・寒い時期は戸外での植物採集が困難になるので、生け花として活動を行う。
- ・購入物品: 植物染色液、オアシス、花器、花

### 活動のあゆみ

- ・4月～10月  
活動の時間に戸外で季節の野花の観察、採集。  
朝顔や夏野菜(オクラ、ラディッシュ、モロヘイヤ)の栽培。
- ・11月～3月  
月に一度、活動の時間に花を買いにいき子どもたちが選んだ花を生ける。また、3月の卒園式では、子どもたち自身で生けた花で彩りを添える。
- ・1月  
子どもたちが戸外で見つけた植物を染色液に浸し、変色体験をする。

### ✿探究活動の実績✿

#### ①どんな問いかけから始めましたか？

2歳児に、戸外に出掛けた際や、出掛ける前に「お花は好き？」と質問すると大きく頷いたり「好き」と答える姿が見られた。知っている花はあるか問うと「たんぼぼ」と答える子どもが多かった。散歩中や戸外遊び中によく見かける機会が多く、実際に見たり触れたりする花に親しみを持っているようだった。

#### ②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

花や植物に興味はあるが、名称や種類の知識はあまり無いようだったので“植物は季節によって咲いているものが違う。色々な色、形や種類の花があって皆のように生きていてお水や土というご飯(栄養)が無いと枯れてしまう”という事を伝えた。

#### ③活動中の子どもたちの姿・声

野菜を育てる上で、花を咲かせてから実になっていく過程を不思議そうに見る。花だけでは野菜の見た目との違いに、イメージが結びつかないようだったが、3歳児は「似ているところを探してみよう」と一人の子どもが発し、「花びらのここが野菜と同じ色をしている」等、発見があるようだった。

生け花は始めたばかりの頃は、茎や花びらに触れる際、力を込め過ぎて花びらをちぎってしまったり、茎を折ってしまう姿が見られたが、回数を追う毎に力加減をコントロールしながら花を扱う事が出来るようになる。

#### ④終わりの時期の姿・まとめ

実際に、植物や花に照準を当て様々な方向から関わった事で、花の名称に詳しくなるだけでなく季節ごとに咲く花まで、答えるようになる。3月の保護者会では、家庭でも野花を見つけると家に持ち帰り、生け花を自分でするようになって、センスが磨かれている、という意見を頂いた。“きれいだな”と感じた植物を、自発的に自由な発想でアレンジしてみよう、という姿が見られるようになった。

公園で、観察と採集をしている姿



松ぼっくりに色付けしている姿と完成したリース



採集した植物を染色剤に浸している姿



生け花をしている姿



### まとめ

前年度、取り組んだ植物採集や野菜の栽培、生け花を継続した事に加えて今年度は、植物を色染めしたり、採集した木の実に色付け等、新たな取り組みに挑戦した。染まりやすい植物や、枯れてしまっている植物は染まらない等の発見があった。すぐに結果や仕上がりが分かるものばかりではなく、一定の期間、観察や世話が必要な内容のものがあつたが、その間の経過を楽しみながら取り組む姿が見られた。植物を通して、命の大切さや色の組み合わせ方、創造性等を育む事が出来たように思う。

また今年度も、花を見て子どもたちの表情が一気に華やぐ姿を見て、ワクワクとした気持ちや植物に対する更なる興味や関心を高められる時間となると良いな、との思いで活動を行った。知的好奇心や探究心を今後も継続して引き出していきたいと思い、今後は、今年度挑戦した植物以外のものを色染めし、さらに染まった植物を使って、リース等の創作活動も取り入れていきたいと思っている。



とうきょう すくわくプログラム  
2025年度活動報告書



テーマ【秋の自然物に触れる】

設定した理由・背景

戸外に出ると季節ごとに変化する自然物や生き物に興味関心を持つ姿が見られるため、散歩の中で様々な自然物に触れることで好奇心や探究心を育めるようにする。

用意した環境設定

- ・バギー
- ・絵本や図鑑
- ・製作で使う絵の具や画用紙

活動のあゆみ

4月～9月

近隣の公園へ散歩に出掛ける

10月

涼しくなってきた頃に、秋の自然物に関する絵本や図鑑を見せたり「どんぐりころころ」の歌を歌ってみたりする。

11/5(水) どんぐりが落ちている場所へ散歩に行き、どんぐりや葉っぱを拾い、自然物に触れてみる。

11/13(木) 葉の色を絵の具で表現した製作を行う。

11/21(金) 散歩先で落ち葉を集めて画用紙に貼ってみる。

※探究活動の実績※

①どんな問いかけから始めましたか？

日頃から、散歩に行く中で草花に触れて自然物に触れる経験をする。秋になってきた頃に、季節の絵本や自然物の載っている絵本を見せたり、「どんぐりころころ」の歌を歌ったりして、興味関心を引き出す。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

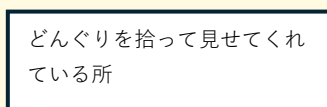
散歩先でどんぐりを見つけた時に保育者が「どんぐりっていうんだよ」と声をかけて見せると、興味を持ち自ら手を伸ばして触ってみる。その後、自らでどんぐりを集めたり、紅葉した落ち葉を拾ったりして自然物に触れ合う。数日後、保育室に置いてあった図鑑を読んでいると、一人の子どもがどんぐりの写真が載っていることに気付き、指を差して「どんぐり」と言って嬉しそうに保育者に教える。図鑑を読んでいると様々などんぐりの種類が載っていたので、「丸いどんぐりや、細長いどんぐり、帽子もあるんだね」と声をかけながら、さらに探究心を引き出せるようにした。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

興味や関心の次は、製作に繋げていけるように、紅葉した落ち葉を絵の具で表現した製作を行ったり、画用紙に両面テープを付けて、そこに拾った葉っぱを貼ってみたりした。興味を持って行う子どもが多く、実際に見て触れる体験をしたことで、製作への興味に繋がっていった。



バギーに乗って散歩に向かう姿



どんぐりを拾って見せてくれている所



紅葉を絵の具で表現して製作する姿



画用紙に落ち葉を貼っている所

図鑑を見ている



④終わりの時期の姿・まとめ

4月の頃は、まだ歩行が出来なかったのでシートの上に乗ってシートの端から少し草花に触れる程度だった子どもたちも、ハイハイから歩行へと成長していく中で行動範囲が広がり、自ら探索して自然物に触れる姿が見られるようになった。発語が出てくると指差だけでなく言葉で見た物を伝えようとする姿が見られるようになり、発見や気付きが増える事でさらに好奇心や探究心が深まっている。

まとめ

0歳児クラスは、ハイハイから歩行、指差しから発語へと変わる大切な時期なので、たくさんの発見や気付きが探索活動に繋がったり、言葉の獲得にも繋がってくると思います。そのため、子どもからの日頃の発信に丁寧に応えながら、さらに好奇心や探究心を深めていけるよう関わっていきたいと思います。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

八王子みなみ野雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうせん

#### テーマ【 自然との関わり 】

##### 設定した理由・背景

日頃の散歩の中で草花や自然に目を向ける機会を大切にしていきたいと「自然との関わり」をテーマにした活動を行った。また自然豊かな環境の中で山道を歩いたり川遊びをするお泊り保育での体験につなげていきたいと考えた。

##### 用意した環境設定

すくわくシート、お泊り保育交通費、宿泊費、施設利用費

##### 活動のあゆみ

7月18日 散歩に行き、草花を集める

7月22日 押し花作りをする

8月4,5日 お泊り保育（アメリカキャンプ村）

8月6日 お泊り保育を振り返りながらすくわくシートに取り組み、持ち帰った草花を使って、押し花作りをする。

8月13日 押し花を掲示した後、子どもから保護者にプレゼントをする

#### ※探究活動の実績※

##### ①どんな問いかけから始めましたか？

お泊り保育では豊かな自然の中で活動する機会があることから、日常の散歩の中でも様々な草花や虫に目を向け、自然との関わりを深めていきたいと考えた。「どんな植物があるかな」「この葉っぱはどんな形かな」と子どもたちに問いかけながら、自然への関心を高めていった。

##### ②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

散歩では、子どもたちが道端の草花や葉っぱに気づき、「この花可愛い」「葉っぱの大きさが違うよ」と、友だち同士で伝え合う姿が見られた。「どんな色をしているかな」「触るとどんな感触かな」と保育者が声をかけ、子どもたちが自然をよく観察できるよう関わった。また、集めた草花を使って押し花作りを行うことを伝えると、活動への期待がさらに高まっていた。

##### ③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

お泊り保育で訪れたアメリカキャンプ村では、子どもたちは山道を歩きながら様々な自然に触れることを楽しんでた。川遊びでは「カニがいる」「こっちにもいるよ」と友だちと声をかけ合いながら、生き物を見つける姿が見られた。また、集めた石や草花をグループごとに黒い袋の上に並べて観察すると、「この石丸いね」「この葉っぱ大きいね」など、気づいたことを伝え合いながら自然物を見比べる様子も見られた。友だちと見せ合ったり話し合ったりする中で、自然への興味や関心がさらに広がっていた。

##### ④終わりの時期の姿・まとめ



農道へ行き、草花を集める様子



川遊びを楽しみながら、様々な生き物や自然物を発見する様子



子どもたちが集めた自然物



持ち帰った自然物を使って、押し花作りをする様子

#### まとめ

今回の活動では、散歩での自然との触れ合いから始まり、お泊り保育での体験、その後の押し花作りへと活動を繋げていった。子どもたちは草花や石、生き物など様々な自然物に興味を持ち、観察したり友だちと発見を共有したりしながら自然に親しむ姿が見られた。また、自然の中での体験を通して、「見つける」「集める」「比べる」などの経験を楽しみながら、1泊2日の中で友だちとの関わりも深めることができた。今後も子どもたちの気づきや発見を大切にしながら、自然と関わる活動をたくさん取り入れていきたい。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

八王子みなみ野雲母保育園



#### テーマ【 音 】

##### 設定した理由・背景

日々の生活や遊びの中で、子どもたちは楽器遊びや生活音に興味を示し、音を鳴らしたり聞いたりすることを楽しむ姿が見られた。そこで様々な音に触れたり、音の違いや面白さに気づいたりできるように、「音」をテーマにした活動を行った。

##### 用意した環境設定

鉄琴、木琴、カスタネット、ハンドベル、タンバリン、きつず和太鼓、マラカス、浮遊スカーフ

#### 活動のあゆみ

- 8月1日 保育室内の音探し、楽器遊び
- 8月28日 散歩に行き、戸外での音探しをする
- 10月～12月 週に1回楽器遊び
- 12月13日 発表会で合奏を行う
- 1月27日 園内の音探し、楽器遊び
- 3月6日 マラカス作り、合奏

#### ※探究活動の実績※

##### ①どんな問いかけから始めましたか？

日頃から歌を歌ったり、リトミックを楽しんだりすることが好きなクラスで、音楽に合わせて体を動かしたり、楽器に触れたりすることに親しんできた。そこで、「みんなの周りには、どんな音があるかな？」と問いかけたことをきっかけに、子どもたちは音に耳を澄ませたり、身近な物を使って音を鳴らしてみたりする姿が見られた。

##### ②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

廃材や米を使ってマラカスを作ると、振った時に鳴る音を楽しみながら、「いい音がする」「たくさん入れたら大きい音になる」と言って、気づいたことを保育者や友だちと共有する姿が見られた。保育者は「本当だね」「優しく振るとどんな音になるかな？」などと声をかけ、子どもたちが音の違いや変化に気づけるよう関わった。また、鉄琴や木琴、鈴などを使った楽器遊びでは、「この楽器はどんな音かな？」「叩き方を変えるとどうなるかな？」と声をかけながら、それぞれの音の違いや響きを楽しめるよう工夫することで、音への興味を広げていった。

##### ③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

保育室内での音探しを行うと、ドアの開閉音、水道から水が出る音、玩具が触れ合う音などに耳を澄ませながら、「この音面白いよ」「ジャージャー音がするよ」と、発見したことを積極的に発言する姿が見られた。また、楽器遊びでは「一緒に音を鳴らしてみよう」と友だちに声をかけて音を鳴らしていたり、発表会で行った合奏「ジングル・ベル」では、心と一緒に、みんなで音を合わせようとする姿が見られた。

##### ④終わりの時期の姿・まとめ



玩具を鳴らして音の違いを楽しむ様子



拾ったどんぐりを振って、音を聞く様子

製作したマラカスを使って、合奏する様子



様々な楽器を鳴らすことを楽しむ様子



#### まとめ

今回の活動では、身近な音や様々な楽器に触れる経験を通して、子どもたちが音に興味や関心を持ち探究する姿が見られた。聴いたり鳴らしたりする中で、音の違いや面白さに気づいたり、自分なりに試したり考えたりしながら活動に取り組み、友だちと共有することを楽しんでいった。今後も、子どもたちの「やってみたい」「どうしてだろう？」という思いを大切にしながら、身近な環境の中で様々な発見や学びに繋がるような活動を取り入れていきたい。